

# 中学歴史プリント（過去問類似）

## 安土桃山時代

名前

得点

/8

**問1** 16世紀、イエズス会が日本を含むアジアなどの海外への布教活動を積極的に行った背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 山梨公立入試 類似)

1. ヨーロッパで宗教改革が起こり、カトリック教会の勢力が縮小したため。
2. ルネサンスの影響により、キリスト教以外の学問が禁止されたため。
3. 島原・天草一揆の結果、幕府がキリスト教の布教を許可したため。
4. 大航海時代の到来により、ヨーロッパ全域がイスラム教に支配されたため。

**問2** 16世紀、日本には種子島への鉄砲伝来やフランシスコ・ザビエルによるキリスト教の布教など、ヨーロッパの文物がもたらされました。これらの物品が日本へ伝来する契機となったポルトガルの海外進出について、その歴史的背景を説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2021年 愛知公立入試 類似)

1. オスマン帝国が陸上の交易ルートを支配したため、香辛料の獲得や布教を目的として海路による新航路を開拓した。
2. モンゴル帝国の衰退によりシルクロードの安全が脅かされたため、キリスト教国を守るための軍事拠点を求めた。
3. 十字軍の遠征に失敗したヨーロッパ諸国が、イスラム勢力を背後から攻撃するためにアフリカ大陸の南下を試みた。
4. 産業革命によって大量生産された綿織物の市場を確保するため、アジア諸国との自由貿易ルートを確立した。

**問3** 16世紀のヨーロッパにおいて、ドイツのマルティン・ルターがカトリック教会の腐敗を批判し、聖書のみを信仰のよりどころとするよう説いて始まった一連の運動を何といいますか。 (2020年 京都公立入試 類似)

1. 宗教改革
2. ルネサンス
3. 十字軍
4. 産業革命

**問4** 16世紀半ば、ポルトガル人やスペイン人との間で行われた南蛮貿易において、日本から海外へ大量に輸出された品目は何ですか。当時の日本が世界有数の産出量を誇り、支払いの手段としても用いられたものを選びなさい。 (2018年 沖縄公立入試 類似)

1. 銀
2. 生糸
3. 香辛料
4. 陶磁器

**問5** 織田信長が自身の本拠地である安土などの城下町において、「楽市・楽座」の令を出した主な目的として、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2019年 静岡公立入試 類似)

1. 特定の商人が持つ独占的な特権を廃止することで、自由な取引を促し、城下町の経済を活性化させるため
2. 農村の土地の広さや収穫量を調査し、農民から直接、年貢を確実に徴収する仕組みを作るため
3. 農民から刀や脇差などの武器を取り上げることで、一揆を防ぎ、武士と農民の身分を明確にするため
4. 寺社や公家の勢力を守るために、座の権利を保護し、市場での徴税を強化して軍事費をまかなうため

**問6** 豊臣秀吉が実施した「刀狩」について述べた文として、誤っているものはどれか。 (2017年 北海道公立入試 類似)

1. 百姓から刀や弓、槍などの武器を没収した
2. 一揆を防ぎ、百姓を農作業に専念させようとした
3. この政策と太閤検地によって、兵農分離が進められた
4. 百姓に対し、名字を名乗り刀を差すこと（名字帯刀）を認めた

**問7** 16世紀半ば、種子島への鉄砲伝来をきっかけに始まった、ポルトガル人やスペインの商人との貿易に関する説明として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 沖縄公立入試 類似)

1. キリスト教の布教とともに、鉄砲や活版印刷術などの新しい技術や文化が日本に伝えられた。
2. 長崎の出島を唯一の窓口とし、オランダから伝えられた医学や天文学などの学問が普及した。
3. 蝦夷地のアイヌ民族との交易を独占した松前藩が、サケや昆布などの特産品を全国に流通させた。
4. 東南アジア各地に日本町が形成され、朱印状を持った船がタイやルソンとの間を往来した。

**問8** 歴史上の出来事を整理した記録において、16世紀後半の「天正」年間に起きた事柄と、19世紀前半の「天保」年間に起きた事柄を比較したとき、天正遣欧少年使節に関する記述として正しいものはどれですか。 (2020年 岡山公立入試 類似)

1. 九州のキリシタン大名が、キリスト教世界の中心地へ少年たちを派遣した。
2. 江戸幕府の老中である水野忠邦が、キリスト教を禁止するために派遣した。
3. 足利義満が、明との間で勘合貿易を開始するために少年たちを同行させた。
4. 鎖国体制を完成させるため、九州の大名がポルトガル船の来航を許可した。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> ヨーロッパで宗教改革が起こり、カトリック教会の勢力が縮小したため。	ヨーロッパ国内で宗教改革が広まると、プロテスタントの勢力が増し、相対的にカトリック教会の勢力が縮小しました。これに危機感を抱いたカトリック側は、組織を立て直すとともに、失った勢力を補うために海外での新しい信者獲得を目指しました。そのために結成されたのがイエズス会です。
問2	<b>答え 1</b> オスマン帝国が陸上の交易ルートを支配したため、香辛料の獲得や布教を目的として海路による新航路を開拓した。	ポルトガルがアジアへ進出した最大の動機は、オスマン帝国の台頭によって困難になった陸路に代わる、香辛料などの交易ルートを確保することにあります。これにキリスト教の布教熱が結びつき、アフリカ南端の喜望峰を經由するインド航路が拓かれ、その延長線上でポルトガル人が日本に到達し、鉄砲やキリスト教が伝わることとなりました。
問3	<b>答え 1</b> 宗教改革	ルターは、当時のカトリック教会が免罪符（贖罪状）を販売して資金集めを行っていたことを批判し、キリスト教の本来の姿に戻ることを訴えました。この運動はヨーロッパ全体に広がり、カトリックから離脱したプロテスタントと呼ばれる新しい宗派が生まれるきっかけとなりました。
問4	<b>答え 1</b> 銀	南蛮貿易において、日本は石見銀山（島根県）などで産出された大量の銀を輸出し、その見返りとして中国産の生糸や火縄銃、火薬、香辛料などを輸入しました。当時、日本の銀産出量は世界の約3分の1を占めていたと言われるほど豊富で、国際的な決済手段として重要な役割を果たしていました。生糸や香辛料は主な輸入物であり、陶磁器が輸出の主力となるのは17世紀後半以降のことです。
問5	<b>答え 1</b> 特定の商人が持つ独占的な特権を廃止することで、自由な取引を促し、城下町の経済を活性化させるため	室町時代まで、商工業者は「座」と呼ばれる団体を作り、寺社や公家に税を納める代わりに販売の独占権を認められていました。信長はこの仕組みが城下町の自由な発展を妨げていると考え、座を廃止して税を免除する「楽市・楽座」を実施しました。これにより、全国から商人を呼び寄せ、城下町を自勢力の経済的拠点にすることに成功しました。
問6	<b>答え 4</b> 百姓に対し、名字を名乗り刀を差すこと（名字帯刀）を認めた	刀狩は、百姓から武器を取り上げることで武士と農民の身分をはっきりと分ける（兵農分離）ための政策でした。「名字帯刀」は江戸時代の武士に認められた特権であり、一般の百姓に対しては、逆に武器を持つことを厳しく禁止しました。
問7	<b>答え 1</b> キリスト教の布教とともに、鉄砲や活版印刷術などの新しい技術や文化が日本に伝えられた。	16世紀半ばに始まった南蛮貿易では、ポルトガルやスペインの商人が来航し、貿易とキリスト教の布教が密接に結びついて行われました。この貿易を通じて、軍事面に大きな影響を与えた鉄砲だけでなく、活版印刷術などの西洋の技術も導入されました。オランダとの貿易や蘭学は江戸時代の鎖国下の特徴であり、アイヌとの交易は松前藩、日本町の形成は江戸時代初期の朱印船貿易に関連する事柄です。
問8	<b>答え 1</b> 九州のキリシタン大名が、キリスト教世界の中心地へ少年たちを派遣した。	天正遣欧少年使節は、1582年（天正10年）に九州のキリシタン大名によって派遣された使節団です。これに対し、水野忠邦による天保の改革は1841年から始まる江戸時代後期の出来事であり、勘合貿易は室町時代の出来事です。天正遣欧少年使節は、まだ江戸幕府が成立する前の時期に、西洋のキリスト教社会との接触を目的として行われました。選択肢にある「江戸幕府による派遣」や「勘合貿易」は、時代設定や背景が異なります。